横浜町南地区防災マップ

YOKOHAMA TOWN-MAP to Prevention of Disasters

●いざという時のために見やすい所に貼って下さい。

主な避難場所

	施設名	でんわ	構造	収容人員
南地区	①町民交流センター	☎78-2302	W・RC	390
南地区	②南地区老人憩の家	☎78-2241	W	50
南地区	③松栄婦人ホーム		W	20
南地区	④烏帽子平自然の家	☎78-2084	W	190

W：木造　RC：鉄筋コンクリート造　S：鉄骨造

※赤字の避難場所は原子力災害時の一時集合場所（自家用車用）です。

困ったときの連絡先

■警　　察		110番
■火災・救助・救急		119番
■横浜町役場		☎78-2111
■野辺地警察署横浜警察官駐在所		☎78-2110
■横浜町社会福祉協議会		☎78-2067
■東北電力㈱	（停電）	☎0120-175-366
■ＮＴＴ東日本㈱	（故障）	☎〔局番なし〕113番
■ＪＲ陸奥横浜駅		☎78-2106
■横浜郵便局		☎78-2360
■ＪＡ十和田おいらせ横浜町支店		☎78-2321
■横浜町漁業協同組合		☎78-2006
■横浜町商工会		☎78-2218
■三八上北森林管理所横浜森林事務所		☎78-2212

医療機関

■菜の花クリニック	☎76-1787
■松林整骨院	☎78-2238
■公立野辺地病院	☎64-3211
■むつ総合病院	☎0175-22-2111
■県立中央病院	☎017-726-8111
■弘大医学部附属病院	☎0172-33-5111

凡　例

- 避難場所
- 河　川
- JR大湊線
- 国　道

●緊急連絡先●

わが家の避難場所は ＿＿＿＿＿＿

家族の連絡先 ＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿

緊急時連絡先 ＿＿＿＿＿＿

災害のとき、皆さんがとるべき行動

事故の情報を聞いたら、まず落ち着いて行動をすることが大切です。

災害時には、しばしばデマやうわさが、まことしやかに流れることがありますので、災害対策本部の情報や指示を信頼し、憶測で判断することのないように十分注意してください。

町、消防などの広報車や防災行政無線などでお知らせしますので、皆さんは、これらの情報に基づき、沈着、冷静、確実に行動してください。

171=災害伝言ダイヤル

災害時は電話が大変混雑し、家族と連絡がとれないことが多くあります。
そんな時には、「171」をダイヤルし、利用案内にしたがって伝言の録音・再生を行ってください。利用の開始や録音件数（最大10件）など、利用条件については、NTTが決定し、テレビ・ラジオなどを通じて知らされます。

●録音方法

171＋1＋0175＋自宅の電話番号

案内音声が流れます　市外局番が必要です

▲再生方法

171＋2＋0175＋自宅の電話番号

案内音声が流れます　市外局番が必要です

（他の被害地への連絡方法は、被害地の電話番号）

非常時持出品の用意

いざという時に、すぐに持ち出せる非常持出品を用意しておきましょう。また、乳児や高齢者世帯などは各家庭の事情に応じた必要な物を用意しておきましょう。非常食品については、3日分を備蓄するようにしましょう。

貴　重　品…現金、預貯金通帳、印鑑、免許証、クレジットカード、健康保険証など
非 常 食 品…栄養補助食品、飲料水、個人的に食事制限されている方は特別食品
応急手当品…ばんそうこう、包帯、消毒薬、傷薬、胃腸薬、鎮痛薬、常備薬など
生 活 用 品…衣類（下着、上着、靴下など）、石鹸、タオル、洗面具、軍手、雨具、おむつ、哺乳瓶、ミルクなど育児用品、マッチ・ライター、生理用品など
そ　の　他…携帯用ラジオ、懐中電灯、電池、慢性疾患で毎日服薬のある方は、特に忘れずに用意をしてください。
備　蓄　品…飲料水、毛布、ビニールシート（敷物、雨よけ）、卓上コンロ、食料（レトルトのご飯、缶詰、お菓子類など）使い捨てカイロ、新聞紙、ポリタンクなど

災害時の心得

その1　大地震が発生した時の避難の心得

1. 避難する前に、もう一度火の元を確認し、ブレーカーも切る
2. 避難する際の荷物は最小限に、避難は徒歩で
3. ヘルメットやずきん、座布団などで頭を保護
4. 災害弱者（身体障害者、傷病者、高齢者、妊婦、乳幼児等）に協力して、安全な誘導を
5. 避難場所へ移動する時は、狭い道、川べりなどは避ける
6. 津波、山崩れ、岩崩れに注意

その2　火災が発生した時の避難の心得

火災が発生した場合、自分1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、速やかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1. 天井に火が燃え移った時が避難の目安
2. 避難は、災害弱者を優先
3. 日頃から2通り以上の逃げ道を確保しておく
4. 服装や持ち物にこだわらず、できるだけ早く避難する
5. ためらいは禁物、炎の中は一気に走り抜ける
6. 煙の中を逃げる時は、できるだけ姿勢を低くして
7. いったん逃げ出したら、再び中には戻らない
8. 逃げ遅れた人がいる時は、近くの消防隊にすぐ知らせる

その3　風水害が発生した時の心得

毎年のように大きな被害をもたらす台風や集中豪雨から身を守るため、事前の準備や安全行動が不可欠です。台風は、時期や規模を予測できますが、大雨や強風の威力は図りしれません。決して油断しないで日頃から十分な対策を立てておく必要があります。

1. テレビ、ラジオなどの気象予報、台風情報、防災行政無線などで知らせられる注意報や警報を注意深く聞く。むやみに外出しない。
2. いつでも避難できる服に着替えて、非常持出品を準備
3. 停電に備えて懐中電灯、携帯ラジオ、衣類などを準備、予備の電池も忘れずに
4. 家の周りを見て、トタンのめくれ、壁の状態などをチェックを物干しなど飛散の危険性が高い物は屋内へ
5. 浸水などの心配があるときは、家財道具や生活用品を高い場所に移動
6. 家周辺の裏山・崖、河川などの危険箇所を把握しておく
7. 避難場所、避難経路など家族みんなで確認しあっておく、避難するときは、火の元の確認を

その4　原子力災害が発生した時の心得

原子力発電所や再処理施設は、多くの防護壁やシステムによって安全が確保され、通常の運転により発生する放射性物質は、適切な処理し、十分な安全レベルを確認しています。しかし、万一事故が起こり、これらが正常に機能しなければ、放射性物質（気体状）は大気中へ放出されてしまい、周辺住民が放射性物質にさらされる危険性があります。このような異常な事象が発生したことに伴う被害を「原子力災害」と言います。もしも、原子力発電所等が通常よりも高い放射線（5μSv／h（500nv／h））以上:通常横浜町では20nSv／h（0.02μSv／h）位）が検出されたときは、原子力発電所等は、すぐに国、県、隣接市町村に発生情報を通報することが義務づけられています。放射線は、人間の五感で感じることができないため、自ら被害の程度を判断することができませんから、国、県、町などからの正確な情報に基づき、沈着、冷静、確実な行動をしてください。

1. テレビやラジオのスイッチを入れ、正確な情報をつかむ、広報車、防災行政無線などの情報に注意する
   ・外出は控え、指示があるまで自宅等で待機しましょう
   ・デマなどに惑わされないように注意しましょう
   ・緊急でない電話や携帯電話の通話は、控えてください
2. “屋内待避” を指示されたら自宅などの家屋内に入り、窓、ドアを閉めてください
3. “コンクリート屋内退避又は避難” を指示されたら、原則一時集合場所（自家用車用）に集まって下さい。自家用車避難が困難な場合は一時集合場所（徒歩用）に集まって下さい。

（単位／m（ミリ）:千分の1・μ（マイクロ）:百万分の1・n（ナノ）:十億分の1）